

若草学級 国語科学習指導案

令和4年9月28日(水)第5校時

児童 若草学級1～6年 31名

授業者 親川満枝

令和4年度 研究主題

思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力の育成

～国語科を中心とした言語活動の充実～

1 教材名 『落語絵本 まんじゅうこわい』 / 川端誠(クレヨンハウス)

2 単元の目標

- ・身近なことを表す語句、様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。〔知識・技能〕((1)オ)
- ・場面の様子や登場人物の行動などを具体的に想像したり、登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に内容を捉えたりすることができる。〔思考力・判断力・表現力〕(C(2)イ)
- ・文章を読んで自分の体験と結び付けたり、理解したことに基づいて感想や考えをもったりすることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕(C(1)オ)
- ・言葉がもつよさを感じたり楽しんで読書をしたり、国語を大切にしたいや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 学びに向かう力、人間性等
① 身近なことを表す語句、様子や行動、気持ちを表す語句を捉え、使える語彙を増やしている。 (1)オ	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	① 言葉を通じて、様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりしようとしている。

4 単元・教材について

(1) 単元について

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度3月告示）の以下を受けて設定した。

第1学年及び第2学年 2内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

- イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
- オ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。

第3学年及び第4学年 2内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

- イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

3) 我が国の言語文化に関する事項

- イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

この単元を通して、「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える力」「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力」「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像する力」を身に付けさせたいと考えている。その力を付けさせるため、本単元では「C読むこと」の言語活動例 イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝えあったり、演じたりする活動」を具現化し、「落語の話」という単元を設定した。毎時間、内容や想像したことなどを伝え合う活動を取り入れるとともに、文章を読んで理解した話の内容に基づいて、落語の面白さや登場人物の滑稽さを音読や動作化、劇化を通して表現することを最終目標と位置付けた。

また、上記の力を身に付けるために、「自分なりの根拠を基に考え、表現できる力」すなわち「正確に理解し、適切に表現する資質・能力」の育成が必要である。「自分なりの根拠」は叙述と挿絵のどちらかから児童の習熟度に応じて設定し、表現においては話し合う場面や音読場面だけでなく、劇化をする場面など様々な形態を設定した。本単元は「まんじゅうこわいを演じてみよう」（学習発表会）や「落語家さんのまんじゅうこわいを聴いてみよう」（総合的な学習の時間）などへと指導をつなげていくが、なにより本単元の言語活動の充実を大切にして指導を進めていく。

(2) 教材について

落語は、江戸時代に始まった日本の伝統的な話芸である。何人もの登場人物が現れ、会話を中心にして話が進められ、最後には誰も予期していなかった落ち（下げ）と言われる面白さが待っている。もちろん古典落語のひとつ、『まんじゅうこわい』も、町内のわかいもんの何気ない会話のやりとりから話が進み、「このへんで、うまいお茶がこわい。」と落ちていくという落語のお手本のような展開である。単純な展開ではあるものの、会話文の中には気持ちを表す言葉や表現が多く入り込み、表情豊かなやり取りが繰り広げられていて、子どもを話の世界に引き込む力がある。また、場面の様子や登場人物の行動や会話から、主人公の気持ちを具体的に想像することで、より話の面白さが感じられる教材である。

さらに特別支援学級に在籍する児童においては、

- ①テーマの「まんじゅう」や「おちゃ」が身近な存在で、場面や様子を想像しやすい。

②落語のような会話文構成は本人になりきりやすく、動作化しながら声に出して読むことができる楽しさがある。

③絵本や動画があるため、音声や文字からだけでなく、挿絵や映像から視覚的に話を観ることができる。

という3点の条件から、本教材は単元の目標へ向かうために適した教材だと考えた。

また、話の面白さに加え、「ぴらぴらととぶ」などの独特な語り口調や言い回しなどにも気付き、伝統的な言語文化に触れることや「ひざをのりだす」や「かたをすくめる」など、長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことの機会にもつなげていく。

5 児童の実態と支援について

(1) 児童の実態

省略

(2) 支援について

① 単元計画と学習集団構成

1次	2次	3次	4次	5次	6次	7次	☆8次	9・10次
全員	縦 割 り	全員	1,2年 3~6 年	1,2年 3~6 年	全員	全員	全員	1,2年 3~6 年 全員

② 一人ひとりに合わせた習熟度別における評価の設定

本時(第8次)では、おおまかには4つの評価を設定した。

◎若さんの気持ちの理由を叙述や話の流れから見付け、伝えることができる。

◎若さんの気持ちの理由を挿絵や劇化から自分なりに考えることができる。

◎課題を捉えて、若さんの気持ちを選ぶことができる。

◎教材に興味をもって、個別の課題に取り組むことができる。

③ 教材や授業法での学習支援

- ・話のイメージや内容を捉えやすくするため、動作化、劇化などの体験活動の充実
- ・学び合いができるように、学習内に習熟度が高い児童を手本にできる交流活動の設定
- ・全児童が他者の考えや思いを共有できるような教材の視覚化 等

6 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

過程	時間	学習目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
第一次 見通す	1	範読を聞き、初発の感想を持つ。	<u>全文を読み、感想を書こう。</u> 1 全文を聞く。(2回) 2 登場人物や時代の確認をする。 3 初発の感想を書く。	文章の内容を捉えて理解したことを基に、感想や考えをもっている。(発言、ワークシートの分析)
	2	誰が話しているのかを叙述や挿絵から考える。	<u>誰が話しているのかを見付けよう。</u> 1 登場人物の確認をする。 2 グループに分かれて、誰の台詞かを確認する。 3 グループごとに役割読みをする。	誰の台詞かを捉えている。(発言、教科書の書き込み)
	3	本文全体を通して役割読みをする。 動作化して内容を大まかに捉える。	<u>役になりきって読もう。</u> 1 前回分けた役割を確認する。 2 若さん、みんな、ナレーター(地の文)の役割に分かれて、全文を読む。(3回)	役割を捉えて、読んでいる。文章を自分で追い、読んでいる。(音読)
	4 5	(3～6年生) 文章中の気になる言葉や表現に着目させ、言葉の意味を調べる。 調べた言葉について、友達と確認し合う。	<u>言葉の意味調べをしよう。</u> 1 気になる言葉や表現を探し出す。 2 グループごとに気になる言葉や表現を国語辞典で調べる。 3 調べたことを書く。 4 調べた言葉を動作化する。 5 友達が調べたことを聞いて、その言葉の意味を捉える。	気になる言葉や表現について出し合い、その言葉について調べたり、考えたりしている。(発言、動作化、ワークシート)
		(1,2年生) 若さんの表情に注目して、気持ちを捉える。	<u>若さんの顔を見て、気持ちを考えよう。</u> 1 様々な表情があることを知る。 2 若さんの表情(笑っている、怖がっている等)から、その時の気持ちを考える。 3 その表情を実際にやってみる。	表情の意味を捉えている。 (発言、表情)
	6	役割読みをして、音読劇をする。	<u>みんなで劇をしよう。</u> 1 配役を決める。 2 役割ごとのチームに分かれて練習する。 3 役割読みとともに、劇化をして内容を捉える。	誰の台詞かを捉えて、文章を読んでいる。言葉の意味を捉えて動作化している。(音読、動作)
第二次 捉える・深める				

第三次 広げる	7	話の中の面白いところを見付ける。	おもしろいところを見付けよう。 1 自分がおもしろいと感じた場面を選ぶ。 2 グループごとに意見を交流する。 3 選んだ場面の挿絵に名札を貼り、自分の意見を示す。	おもしろいと感じた場面を相手に伝えたり、友達の意見を聞いておもしろさを感じたりしている。(発言、選択、ワークシート)
	8 本時	7ページの若さんの表情を考えて、その時の気持ちを話し合う。	若さんの気持ちを考えよう。 1 この場面の若さんの表情を2つの選択肢から選ぶ。 2 その表情を選んだ理由をワークシートに書く。 3 グループの中で、自分の意見を発表し、意見交流をする。 4 理由に選んだ叙述が書かれている場面に名札を貼り自分の意見を示す。	登場人物の表情、気持ちを叙述や挿絵から考えることができる。考えたことを理由を添えて伝えることができる。(発言、ワークシート)
	9 10	自分で考えた「まんじゅうこわい」を作ろう。	自分の「まんじゅうこわい」を作ろう。 1 自分なりに考えた「〇〇こわい」を考える。 2 考えたものを発表し、交流する。	話のおもしろさを感じたり、捉えたりして個々の課題に沿って話を考えることができる。(発言、ワークシート)

7 研究主題との関連

【児童に身に付けさせたい言語能力】

- ① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力
- ② 場面の様子や登場人物の行動や気持ちについて、叙述に沿って読む力
- ③ 文章の内容と自分の体験を結び付け、自分の考えをもったり、表現したりする力

【その言語能力を身に付けさせるために有効な言語活動】

「落語家になろう」という言語活動を設定し、以下の視点を持ち、最終的に学習発表会で劇化することをまとめに位置付けた。それを意識しながら、よりよいものを作ろうとする意欲をもたせながら学習を進めていく。学習の最後のまとめに本物の落語家さんに登場してもらい体験活動を設定することで、伝統文化に関する教育の充実も図る。

- ① 「まんじゅうこわい」がどのような話か視覚的に捉え、内容(あらすじ)や登場人物の行動を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動
- ② 登場人物の行動や気持ちなどを捉え、登場人物の行動・気持ちを具体的に想像する活動(落語の世界を豊かに味わう)
- ③ この話の面白さはどこかを考えることで、登場人物や話の内容などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果について考えたりする活動

【目指す児童像】

- ① 言葉や表現に着目し、物語の内容を捉えることができる児童
- ② 叙述や挿絵を基に自分の思いや考えをもつことができる児童
- ③ 自分の考えや思いを相手と話し合ったり、伝えようとしたりする児童

8 本時(全10時間中の8時)

(1) 本時の目標

- ・登場人物(若さん)の気持ちを考えることができる。
- ・叙述や挿絵から若さんの気持ちの理由を見付け、伝えることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 8分	1 今日の場面を読む。 (5ページ以降の内容)	・テレビ画面にも教科書を映し、挿絵や文章を追いつながら内容を確認させる。	その場面が書かれた教科書のページを開いて、思い出そうとしている。 (音読、行動、表情)
展開 32分	2 今日の課題を捉える。	・若さんのことについて考えることを捉えられるようにする。	今日の課題を把握している。
	若さんは、どんな顔をしているでしょう。		
	3 若さんの表情を考える。	・若さんの表情を2つの表情(笑っている、怖がっている)の選択肢から選ばせる。	叙述や挿絵を基に登場人物の行動を捉え、若さんの気持ちを想像することができる。(発言、ワークシート)
	4 自分の意見や理由をワークシートに書く。	・その表情を選んだ根拠となる部分(叙述、挿絵)を選んだり、書いたりできるようにする。 (実態別のワークシート)	
	5 自分の考えをグループの中で発表する。	・実態に合わせたグループに分けて取り組ませる。選んだ理由が相手に伝わるように発表の仕方に沿って発表させる。	
	6 若さんの気持ちについて全体で交流する。	・黒板に掲示された場面の挿絵(P.5～13)に、自分の名札を貼ることで意見を表したり、視覚的に示したりする。	自分の考えを伝えることができる。(発言、行動) 若さんの表情を理由を基に捉えることができる。

まとめ5分	7 今日の振り返りをする。	・今日の学習内容をまとめ、次時への見通しを持たせる。	
-------	---------------	----------------------------	--

(3) 板書計画



グループ国語 9月 28日 水曜日

まんじゅうこわい

第8席

若さんは、どんな顔をしているのでしょうか。

(4) 授業の視点

- ① 思考力、判断力、表現力の基盤となる言語能力の育成ができたか。
- ② 児童の実態に合わせた手立てや指導が行われていたか。